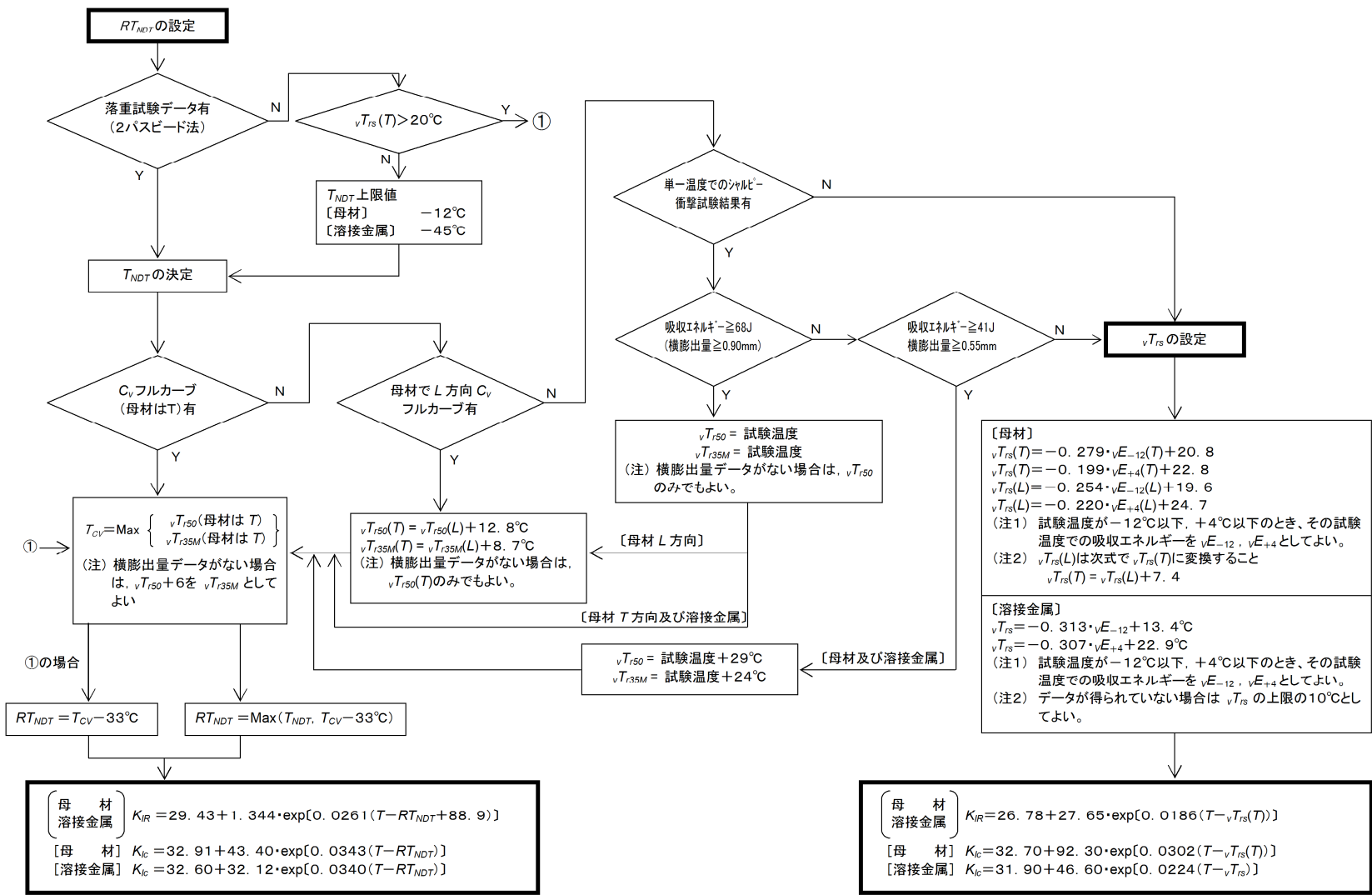


原子力発電所用機器に対する破壊靱性の確認試験方法 (JEAC4206-2007) 正誤表

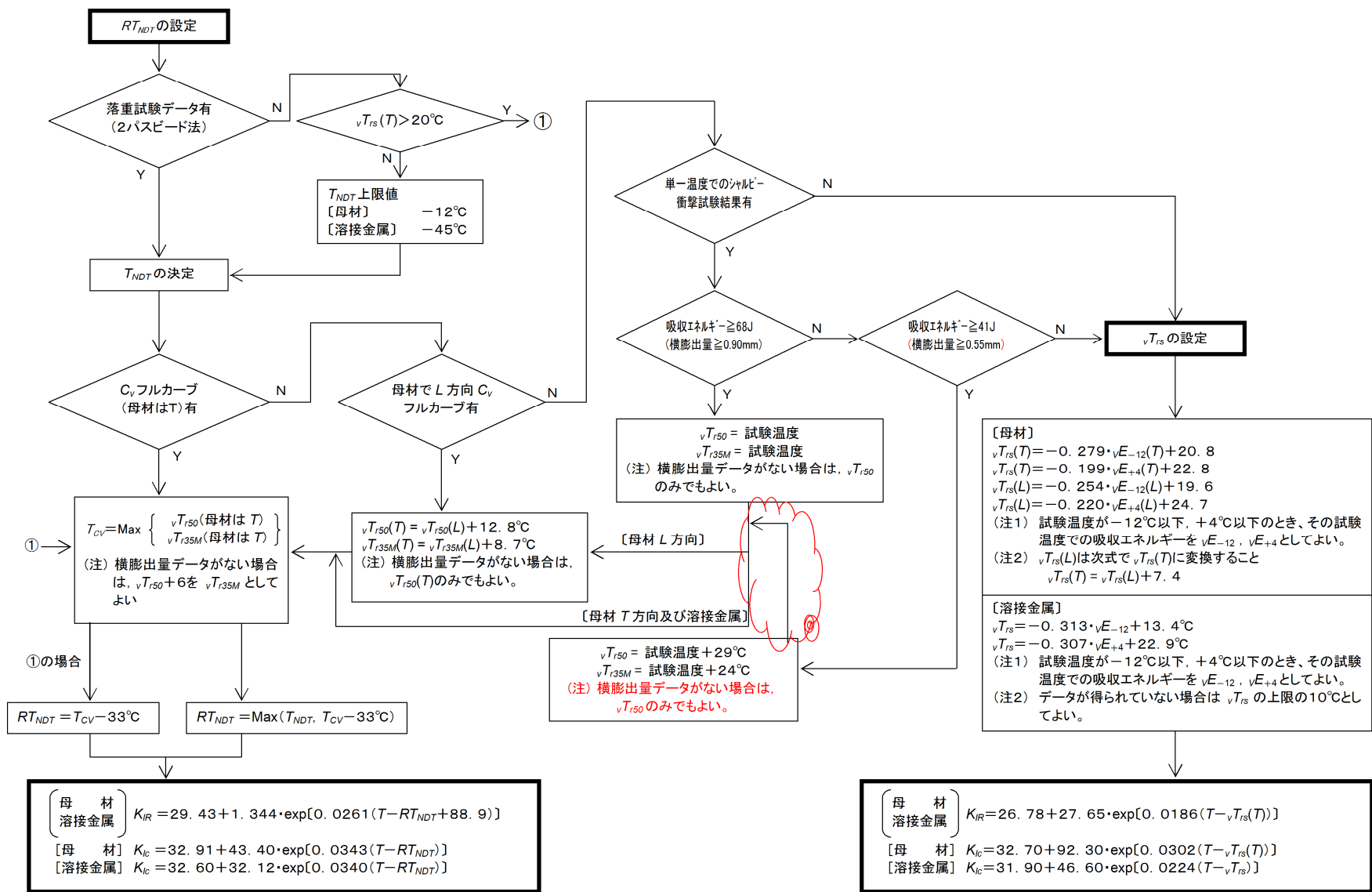
No.	頁	条項番号	誤	正	備考
第 3 章 クラス MC 容器					
1	12	FE-2100 容器材料 (2) b.	b. 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVB-2333.2</u> の要求を満足すること。 但し, 溶接部にあっては JSME 溶接規格の要求を満足すること。	b. 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVE-2333.2</u> の要求を満足すること。 但し, 溶接部にあっては JSME 溶接規格の要求を満足すること。	参照する JSME 設計建設規格の条項の誤記
2	12	FE-2200 ボルト材料 (2)	(2) 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で, 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVB-2333.2</u> の要求を満足すること。	(2) 衝撃試験 容器の最低使用温度より 17 低い温度以下の温度で, 3 個の試験片を 1 組として試験を行い, JSME 設計・建設規格 <u>PVE-2333.2</u> の要求を満足すること。	参照する JSME 設計建設規格の条項の誤記

No.	頁	条項番号	誤	正	備考
附属書 E 破壊靱性評価方法					
3	附 E-8	附属書図 E-5000-1 初期プラントの 破壊靱性評価フ ロー	(次頁に添付)	(次頁に添付)	誤記訂正 変更箇所は、赤 字で記入

誤



正



No.	頁	条項番号	誤	正	備考
〔附属書 F〕 応力拡大係数					
4	附 F-2	附属書図 F-3100-1	(図中) 膜 応 力 $\begin{cases} \underline{K_{lm}} = \underline{M_m} \underline{\sigma_m} \\ K_{lm} = M_m \sigma_m \end{cases}$ 曲げ応力 $\begin{cases} \underline{K_{lb}} = \underline{M_b} \underline{\sigma_b} \\ K_{lb} = \underline{M_m} \underline{\sigma_m} \\ M_b = 2/3 \cdot M_m \end{cases}$	(図中) 膜 応 力 $\underline{K_{lm}} = M_m \sigma_m$ 曲げ応力 $\underline{K_{lb}} = M_b \sigma_b$ $M_b = 2/3 \cdot M_m$	F-3100(1) 及 び F-3100(2) の 規 定との不整合
5	附 F-2	附属書図 F-3100-1	(図中 縦軸の記号) M_m	$M_m \sqrt{\underline{m}}$	単位の抜け
6	附 F-3	附属書図 F-3100-2	(図中) $\alpha = 1.26 \times 10^5 \text{mm/mm} \cdot$	(図中) $\alpha = \underline{12.6} \times 10^{-6} \text{mm/mm} \cdot$	べき指数誤記
7	附 F-7	附属書図 F-3400-1	(図中) $\alpha = 1.26 \times 10^5 \text{mm/mm} \cdot$	(図中) $\alpha = \underline{12.6} \times 10^{-6} \text{mm/mm} \cdot$	べき指数誤記